



ほけんだより

19年度2月号
明照保育園



【子どもの健康状態】

12月に始めたインフルエンザですが、1月中の報告としては、月組が一番多く15名、花組3名、星組2名、雪組2名、赤組2名でした。欠席理由は、熱や嘔吐の他、感染症の報告として、溶連菌感染症（幼児2人・乳児2人）、流行性角結膜炎（乳児2人）がありました。

【溶連菌感染症とは】

のどの痛みや熱がでます。熱は治療しなくても自然に下がることがありますが、1-2週間後に再び発熱します。時には体や手足の発疹などがでることもあります。発疹は紅斑様で、かゆみをとまいません。舌がいちごの表面のようにぶつぶつになったりもします。



治療 抗生剤を飲むと熱や発疹などは2-3日で無くなりますが、抗生剤を止めてしまうと、溶連菌自体はまだのどに残っていて、1週間くらいで再び熱が出てきます。薬をきちんと飲まない、1ヶ月くらい先にリウマチ熱や急性腎炎(体がだるく、元気が無くなり、顔のむくみや、血尿)をおこすことがありますから、医師の指示通り最後まできちんと飲むことが大切です。



予防(家庭で気をつけること) 兄弟や両親もうつりますから、のどが痛いとか熱がある場合は医者にかかってください。登園は熱が無く発疹が消えたらよいでしょう。(およそ、抗生剤を飲みはじめてから2-3日です。)

【流行性角結膜炎とは】

流行性角結膜炎(通称はやりめ)とはウイルスで起こる急性の結膜炎のことです。(ウイルスというのは、麻疹、水ぼうそう、風疹、インフルエンザ等を起こす病原体の仲間を言います。)以前はプールでうつる夏の病気だったのですが、近頃では一年中見られるようになりました。はやり目が怖いのは、伝染力が大変強く、また普通の結膜炎と違って透明な角膜に小さな混濁が生じ、視力が少し低下する場合があります。

治療 特効薬はないので、点眼治療を開始しても直ちに治癒はしません。病勢が強い場合は治療していても一旦悪化する場合があります。更に片眼だけ悪くて、治療していても他眼もやがて悪くなる場合があります。



必ず治癒する病気ですが、完全に治るまでに約2~3週間かかります。

予防 全て接触感染です。ウイルスに感染した眼を手で触れると手にウイルスが付きます。この手を洗わずにいろいろな物に触れると、それにウイルスが付着し、さらに他の人がそれに触れて感染するという経路がほとんどです。

【ぎょう虫卵検査結果と駆除について】



前検の1回目1/18(金)と2回目1/23(金)では、回収のご協力ありがとうございました。2月上旬に前検の結果が出て、お帳面に入れてお知らせしました。ぎょう虫卵が検出された子は、後検までの2~3週間の間に駆除をしてから後検を提出して下さい。

☆ 後検・・・2/29(金)配布

→ 3/4(火)・3/5(水)朝まで回収

ぎょう虫の駆除

- * ぎょう虫駆虫薬として「ポキール」、「コンバントリン」があります。医師または薬剤師に相談してください。
- * なお、ぎょう虫駆虫薬は卵には効きません。したがって、卵から成虫になる期間を考慮して1回目の服薬後2週間から3週間後にもう一度服薬することでほぼ完全に駆虫されます。
- * また、ぎょう虫は1人病患者がいると家族にも感染していることがよくあります。家族全員の駆虫をお薦めします。

ぎょう虫症の予防法 ” みんなでぎょう虫をやっつけよう!! ”

1. 爪を噛んだりしない。
2. 爪はのばしたままにせず、こまめに切る。
3. 肛門のあたりを直接掻いたりしない。
4. トイレの後、食事や調理の前などには、手をよく洗う。



【おわりに】

お遊戯会のこの時期に流行が心配される、インフルエンザは今現在落ち着いていて、嘔吐下痢症が少し出ています。

うがい・手洗い、早起き早寝に心がけ、万全な体制で遊戯会にのぞみたいですね!!

